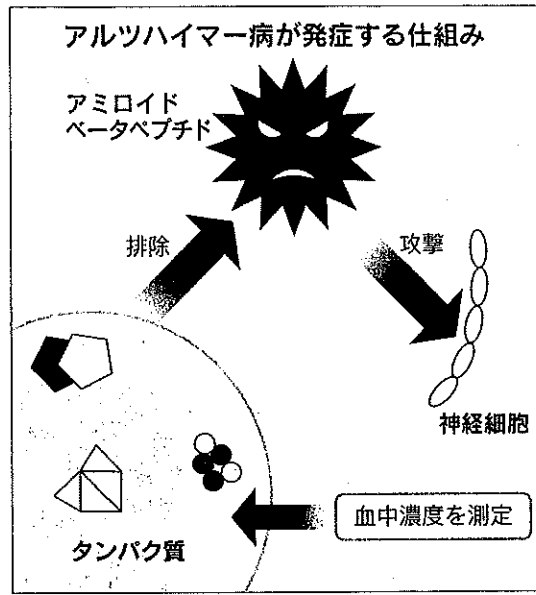


認知症予備軍 早期発見へ

MC I 判定サービス拡大

「認知症予備軍」とされる軽度認知障害(MCI)を判定するサービスが広がっている。筑波大学発ベンチャー、MCBI(茨城県つくば市)は、医療機関で採取した血液からたんぱく質を調べ、リスクを判定する。訪問看護のミレニア(東京・中央)のサービスでは10分間の質問テストでチェックできる。MCIを早期に発見すれば認知症の予防にもつながる。



MCBI 血液から判断 ミレニア 10分の質問で

MCBIは今春から医療機関を窓口、MCIのリスクを判定するサービスを開始した。アミロイドペプチドの蓄積を抑制する役割を果たす3種類のたんぱく質の血中濃度を調べる。タペプチドが脳の神経細胞を壊すことにより発症するとされる。同社の血液検査では、アミロイドペプチドの蓄積を抑制する役割を果たす3種類のたんぱく質の血中濃度を調べる。タペプチドが脳の神経細胞を壊すことにより発症するとされる。同社の血液検査では、アミロイドペプチドの蓄積を抑制する役割を果たす3種類のたんぱく質の血中濃度を調べる。

析しA/Dの4段階でリスクを示す。Aは健康で、Dが最もリスクが高い。料金は自費で2万〜3万円程度。検査にかかる日数は2週間程度で、D判定が出た場合は専門医の病院で2次検査を受けることを勧める。

現在全国800の病院やクリニックで実施しており今後増やす。検査だ

▼軽度認知障害(MCI) 「認知症予備軍」とされ厚生労働省の推計では約400万人が該当する。年齢相応の物忘れよりは認知機能が低下し、初期の認知症の症状との境界にある。診断が難しいため、リスクを評価する簡易検査の重要性が高まっている。

けにとどまらず、生活習慣の改善指導など認知症の予防に効果があるプログラムも提供する方針。血液検査ではなく質問によってMCIを判定するテストもある。訪問看護のミレニアは10分間の質問テストでチェックするサービスを提供している。米国で開発された質問テストで、電話などでオペレーターが話した10個の単語を覚えて一定時間後に答える。覚えていた単語数などの結果に、年齢や性別のデータを加えて分析する。

テスト結果は認知機能を0〜100の指数で表し、49・8未満の場合には「認知症予備軍」と評価する。3780円のアプリカードを購入して受ける。病院向けにも販売が始まっている。2014年5月からパラマウントベッドホールディングスと組んで病院への営業を進めている。認知症は現在根本的に治療するのが困難で、早期に発見して進行を遅らせる治療が重視されてい

る。予防は早いほど効果が高いとされ、MCIのリスクを判定するサービスが普及すれば、家族や本人の負担軽減にもつながる。予防は早いほど効果が高いとされ、MCIのリスクを判定するサービスが普及すれば、家族や本人の負担軽減にもつながる。

日経
MJ

12月18日(金曜日)
月/水/金 発行